



2025年

第8号(12月)



院生ライフレポート

実習の振り返り:研究・実践の往還

1年次の実習について、実践から多くの成果や気付きを得ることとなりました。前期・後期を通じて院生が研究を重ねてきた内容から、実習先の実態等を基に実践していく機会となりました。そこで得られた気付き等から研究の方向性を洗練させることによって、子どもたちの学びや成長を実現する上でより有意義な実践を目指すことができます。実践の気付きや今後の見通しについて、各コースからのコメントを載せています。

授業実践探究コース

担当学級の子ども達や実習校の実態を把握しながら、研究してきた内容を実践で活用していくことを常に意識し続けています。カンファレンスをはじめとして、院生同士で理論と実践の間に生じた改善点を共有した結果、段階を重ねるごとに実習の成果と今後の課題が明確になってきました。子どもたちの学びを最大化するというプレーンな目標のもと、実践から感得された研究のさらなる方向性やよりよい授業実践・改善に取り組んでいきます。(ストマス)

子ども支援探究コース

探究実習を通じて得られた学びは、子どもや学習者を中心に据えた支援のあり方と、その支援をより良くするための振り返りや情報共有の重要性です。教育活動は、単なる知識伝達にとどまらず、信頼関係の構築や客観的な振り返り、心理的安全性の保障を通じて子ども達の成長を支える視点が求められます。教師は、この視点を学校現場に活かし、授業改善や校内研修においてフィードバックを行うとともに、地域や専門機関と連携することで、子どもが安心して学び、自己を肯定できる環境を整える必要があると感じました。(現職院生)

教育経営探究コース

教育経営探究コースでは県内の行政機関等で実習を行いました。今年度は東部・西部教育事務所や教育振興課など2機関でそれぞれ10日間の研修を実施しました。教育事務所では義務教育段階の課題理解やQ-U検査を用いた支援の方法を学び、教育振興課では県の教育施策や学校の自走を促す伴走型支援について理解を深めました。これらの学びを今後の研究や教職に活かしていきます。

(現職院生)

ハンドブック:学びの集積と活用

教職大学院前期に行われた講義「授業づくりと学級経営の基礎と課題」において、右のようなハンドブックを作成しました。学部生対象の講義内で活用されています。

【高校生の感想】※一部抜粋

- 今後の参考になる内容が多く書かれており、改めて目を通しておきたいと思った。
- 自分にはまだなかった視点を得ることができ、考えを深めるきっかけになった。



教師を志す高校生向けの講座『教師へのとびら』で、教育学部の講義を体験する回の教材として活用されました。高校生からも大学生からも大変好評だったようです。

文責:S&S